植物園北遺跡発掘調査概報

昭和57年度

京　都　市　文　化　観　光　局

財団法人　京都市埋蔵文化財研究所

序

京都市域には、平安京跡をはじめ、過去数千年に至る間の各時代の遺跡が各所に存在し、周知の埋蔵文化財包蔵地の総面積は、およそ5,000ヘクタールにも及んでいます。

古都といわれてきた京都も現代都市へと変容しつつあり、市内のいたるところで、かつての木造家屋群は、ビルへと変わり続けています。また、土木工事等による発掘件数が年とともに増加の傾向を示しているということは、一方では新たな事実の解明が進むことではありますが、また一方では、それに伴って遺跡が消滅するということにもなります。

このような状況の中で、本市といたしましても、市民や工事関係者の方々などの格別の御協力をいただきながら、保存し得る遺跡は可能な限り保存し、直接保存し難い遺跡については、その状態をできる限り後世に伝えられるように努めてまいりました。

この発掘調査概報は、昭和57年度国庫補助事業として実施した発掘調査の結果をまとめたもので、これが今後ながく活用されるよう念願しています。

おわりに、調査に当たって御協力、御援助をいただいた文化庁をはじめとする関係各位、市民のみなさま方に心から感謝の意を表します。

昭和58年3月

京都市文化観光局

例　　言

1．本書は、京都市文化観光局が財団法人京都市埋蔵文化財研究所に委託して実施した、文化庁国庫補助を伴う昭和57年度の植物園北遺跡発掘調査概要報告である。

2．調査個所は、以下の通りである。

名称　植物園北遺跡　　住所　京都市北区上賀茂榊田町15

3．本書の執筆は、家崎孝治と卜田健司が共同で行なった。

4．発掘調査は、家崎が担当し、卜田・野村篤美・松尾雅章・明輝建設の方々の参加があった。

5．本書で使用した方位は真北である。水準はＴＰである。

6．本書で使用した位置図は、京都市都市計画局発行の2500分の１の地図を調整使用したものである。

目　　次

1　調査経過……1
2　遺構・遺物……2
3　ま　と　め……2

挿図目次

図1　調査位置図……1
図2　断　面　図……2
図3　調査地平面図……3
図4　大正11年測図　概略図……4

図版目次

図版1　遺跡　1　植物園北遺跡航空写真
　　2　調査前全景（南東から）
図版2　遺構　1　道路（ＳＦ１）検出状況（西から）
　　2　トレンチ西半部近影（南から）

植物園北遺跡調査概要

1　調　査　経　過

京都市北区上賀茂榊田町15で、近藤アパートが新築されることになり、建物の基礎掘削によって地下遺構が破壊される恐れが生じた。

当該地は周知の遺跡植物園北遺跡に相当するため、京都市埋蔵文化財調査センターでは発掘調査の必要性を認め、これを財団法人京都市埋蔵文化財研究所へ委託した。

調査対象地は、建築面積約150㎡であったが排土置き場などを考慮して、L字型に約100㎡の調査区を設定した。調査は表土及び耕作土を機械力によって除去し、以後手掘りで調査を行なった。調査は昭和57年７月31日より開始し、８月４日に終了した。

植物園北遺跡は、昭和54年～56年に、公共下水道敷設工事の立会調査において、弥生末～古墳時代の竪穴住居址などを発見したことに端を発し、山城でも屈指の大規模な集落址

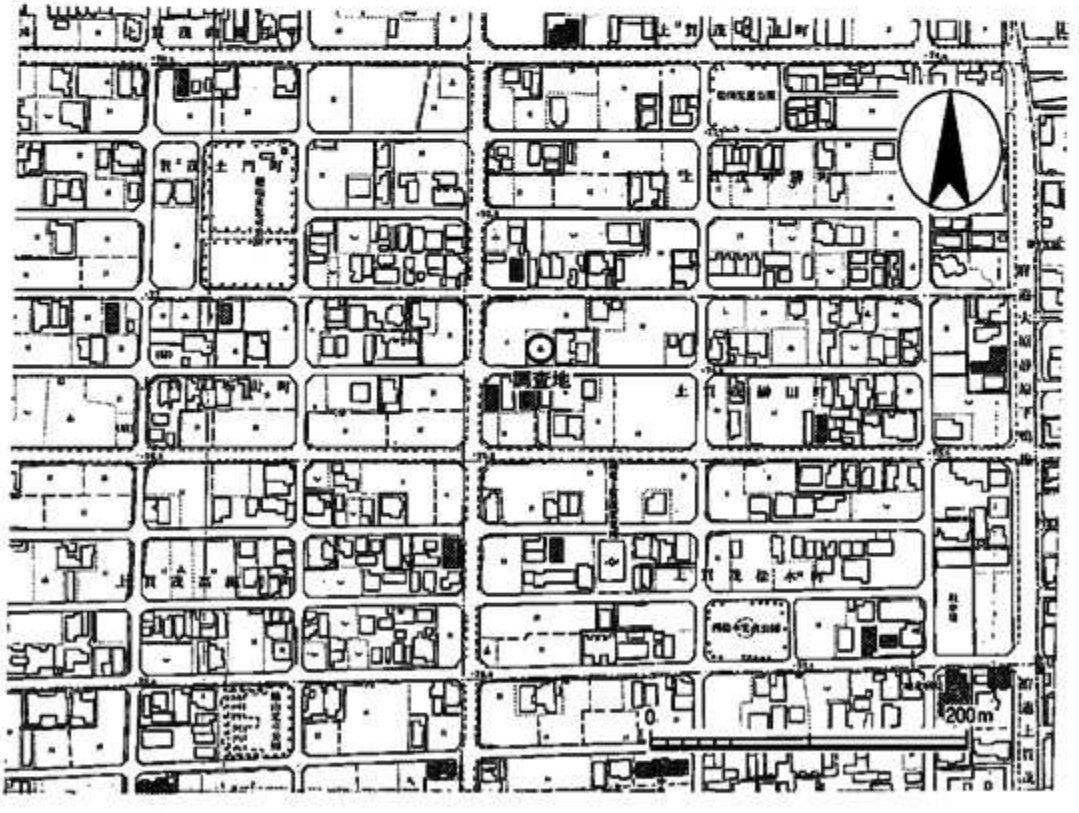


図１　調査位置図

に発展する可能性があり、近年、面的な発掘調査による成果が期待されているところである。また、この集落址が立地する鴨川扇状地の北西端には、上賀茂神社があり、古代鴨氏との関連を考えるうえで重要な遺跡であるといえる。

2　遺　構・遺　物

調査地全体の層序は、上から盛土(0.3m)、耕土(0.2m)、以下茶褐色砂礫層である。茶褐色砂礫層は無遺物層である。今回検出した遺構は、調査区の北半で東西に走る道路跡及び野つぼ1基である。道路跡（ＳＦ１）は、10cm程の厚さで礫が固く敷きつめられており、規模は幅約５ｍである。ＳＦ１は大正11年の測図(註1)にみえる、深泥池より上賀茂神社へ抜ける道路に相当するものであり、昭和47年の区画整理によって、廃絶されたものである。このＳＦ１は、大正11年の測図からは、条里に沿ったものと判断することができるが、今回の調査では、路面の成立が近世以前にさかのぼる根拠は発見されなかった。

3．ま　と　め

当地は、近年の立会調査の成果などから集落に関連する遺構の検出が期待されたが、主に、近世以降の著しい削平によって、全く遺構・遺物を検出することができなかった。

今回の調査で検出された道路は、大正11年の測図によると、上賀茂上股町と同中流石町を分けるものである。現在は両町名とも存在していない。この町を北西の頂点として南東

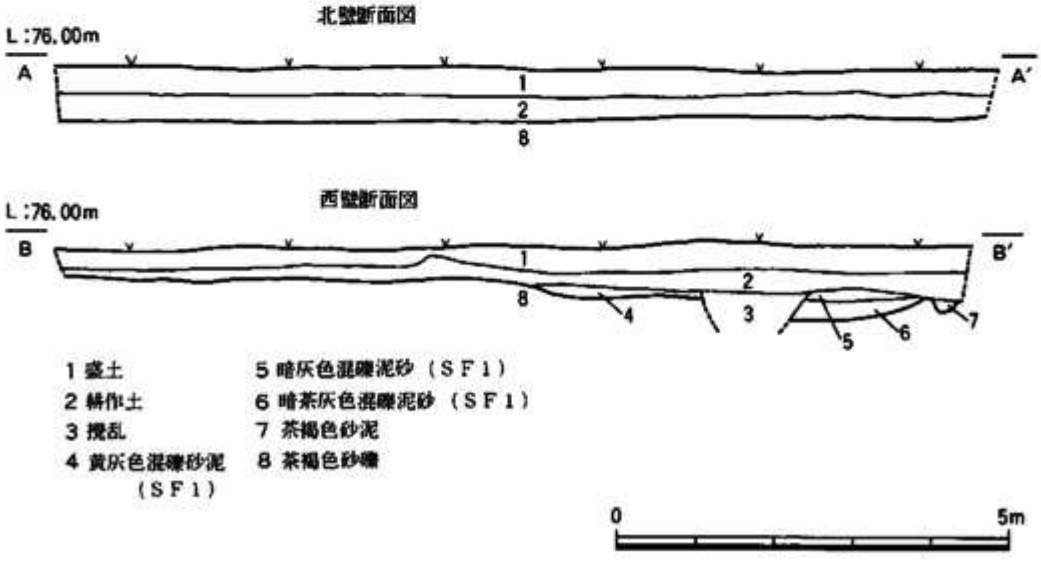


図２　断面図

に向かっての一角は、地割りが複雑になっている。これは、北西から南東にかけて全体に地形がゆるやかに下がっているため、これに合わせて用水路が作られたためにこのように複雑になったものと思われる。

この用水路の基幹になっているのは明神川であり、大正年間の地図によると今回の調査

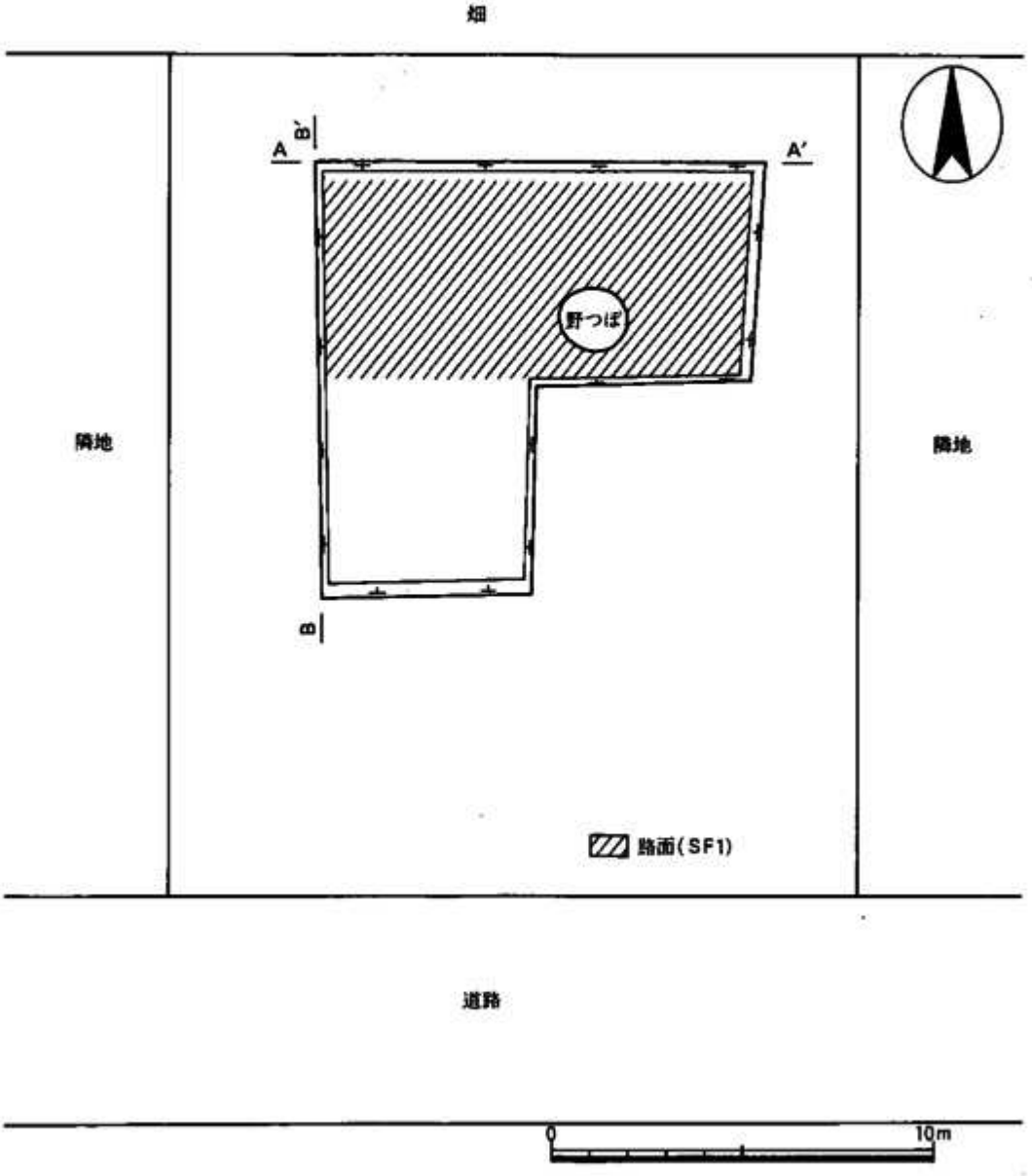


図3　調査地平面図

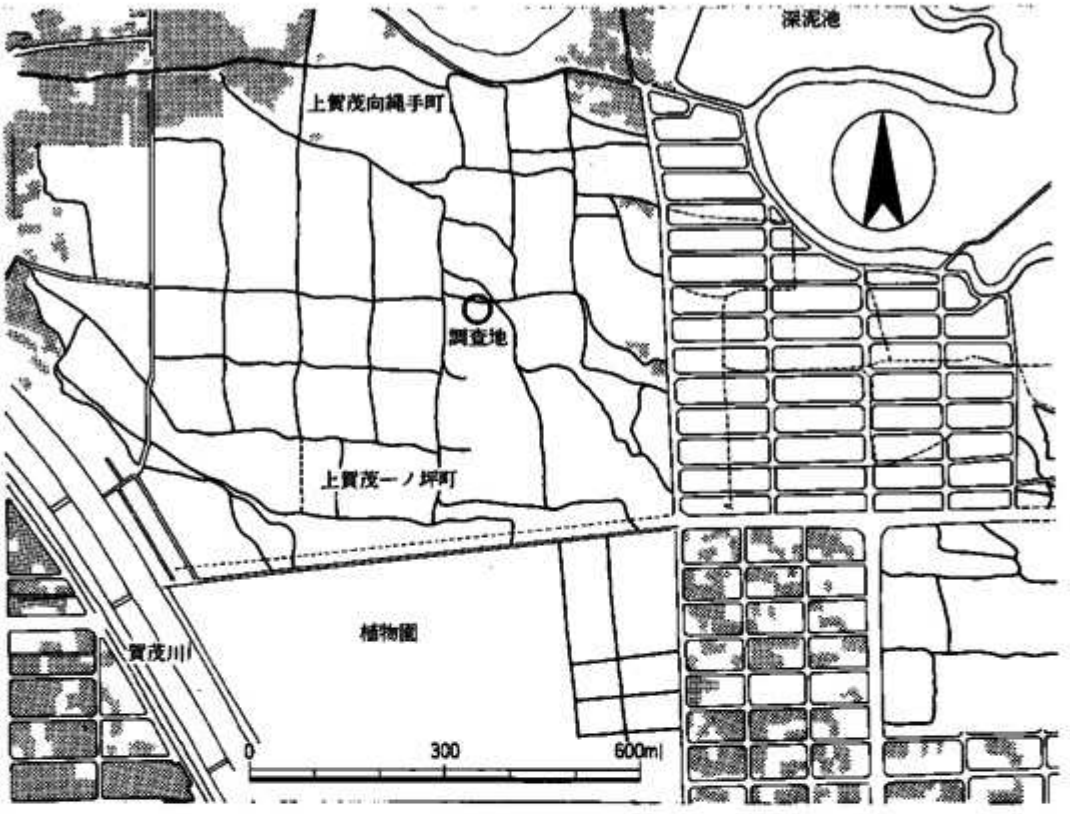


図4　大正11年測図　概略図

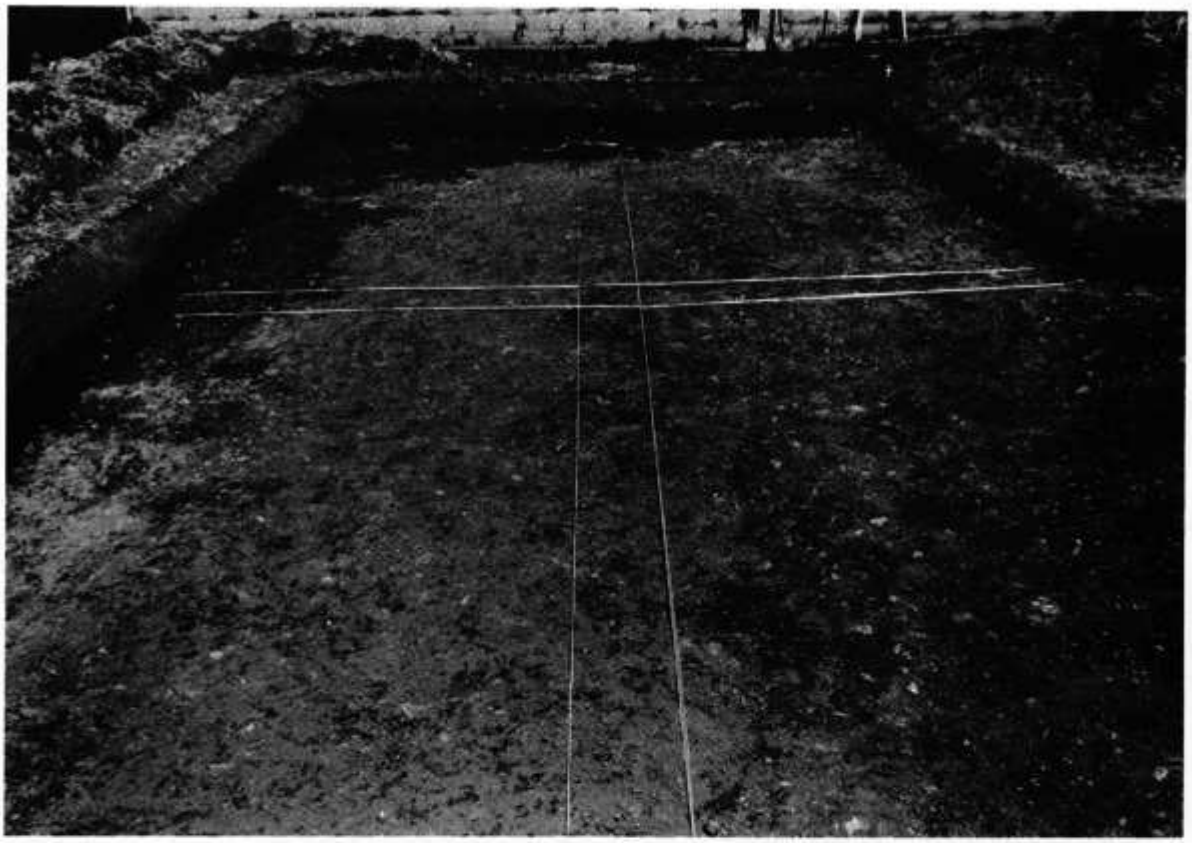
地北方約200 mのところを西から東にむいて流れているのが見られる。現在もその主要流路はほぼ昔のままに踏襲され、一部では暗渠になり農業用水路・生活用水路として機能している。

また今回は検出されなかったが、条里に関連する溝跡が過去の調査で数例あるので、今後の調査の際には事前に文書や地図等の資料を充分検討した上で、調査を行う必要があると思われる。

註1）　大正11年測図　昭和10年修正測図　京都市土木局都市計画課修正

1　植物園北遺跡航空写真

2　調査前全景(南東から)



1　道路(ＳＦ１)検出状況(西から)

2　トレンチ西半部(南から)

植物園北遺跡発掘調査概報

昭和57年度

発行日　昭和58年３月31日

発　行　京都市文化観光局
〒606 京都市左京区岡崎最勝寺町13　京都会館内

編　集　財団法人　京都市埋蔵文化財研究所
〒602 京都市上京区今出川通大宮東入ル元伊佐町265－1
ＴＥＬ(075)415－０５２１

印　刷　㈲　真　陽　社
〒600 京都市下京区油小路綾小路下ル風早町566
ＴＥＬ(075)351－６０３４